

大阪市エル・ライブラリー

◆労働関係の専門図書館

ビルの4階にある閲覧席がたった6席、スタッフ2人の小さな労働図書館、それが2008年10月に開館した「エル・ライブラリー」である。「大阪産業労働資料館」という正式名称が示すように、博物館を意識している。さらに、英語名の Osaka Labor Archive が示すように、文書館でもある。いま注目のキーワード、「MLA連携」を1館で実現するよう目指している図書館なのである。いわば、「MLA融合型図書館」。

当館をご紹介する前に、まずは悲しい前史から入らないといけないのが辛いところだが……。



エル・ライブラリーの閲覧室

◆エル・ライブラリーの前史

——年度途中で図書館を廃止されて

当館を設置運営する財団法人大阪社会運動協会（社運協）は、大阪の労働運動史の編纂を主要な目的として1978年に設立され、以来、『大阪社会労働運動史』の刊行と、そのための資料収集保存を行ってきた。99年に運動史の刊行を8巻まで終えたとき、蔵書は2万冊を超えていたが、すべて非公開であり、これらを一般公開することが私達の悲願であった。そこにちょうど大阪府が直営している「労働情報総合プラザ」（以下、プラザ）の委託運営が申し込まれた。府立労働センターの本館と南館にある二つの図書館を一体的に運営することにより、互いの蔵書構成を補って専門性が高まり、大阪府にとっては大幅な経費削減が見込まれ、人事異動がない社運協への委託は専門性の蓄積という面からも利点があった。

かくして、2000年4月からプラザの運営を始めた私達は、様々な創意工夫と経費節減・人件費削減を実現して、8年後には利用者4倍という成果を上げるに至る。

にもかかわらず、2008年2月に橋下徹知事が就任し、4月に財政再建案が発表されてプラザは廃止と宣告された。以後、多くの方々や私達当事者が反対の声を上げたが、年度途中の7月末に廃止の憂き目にあったのである。この結果、当協会は年間予算3200万円のうち2200万円の収入を失うこととなった。

しかしなお私達はここで諦めず、労働組合や市民団体、企業の内部資料などの一次資料数万点を散逸させず次世代に引き継ぐため、協会資料室をリニューアルオープンし、寄付金を集めて図書館運営を続けることを決意した。

◆エル・ライブラリー開館

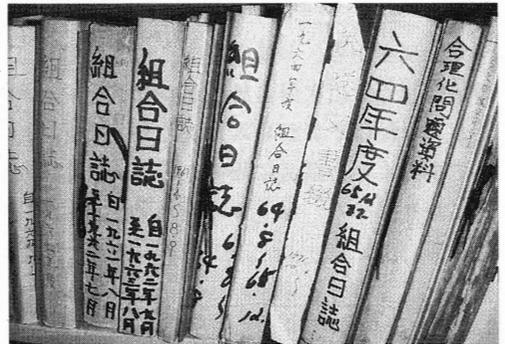
8月からの3ヶ月足らずでプラザからの撤退と並行してエル・ライブラリーへの引っ越しを行い、プラザの旧蔵書を統合する形で2008年10月21日に蔵書数12万冊（図書・雑誌

合計）の図書館としてエル・ライブラリーはオープンした。

以来、エル・ライブラリーには、他館で利用できない貴重な資料を求めて来られる方々が後を絶たない。当館は歴史資料館であると同時に最新のデータや労務関係雑誌を収集する「情報センター」でもあり、社会保険労務士・企業の人事担当者たちが利用してくださっている。

とはいえ、サポート会員などの寄付に頼る経営は苦しく、財政難が続いている。

◆蔵書紹介



労働組合の日誌。戦後すぐのものもある

先にMLA融合型図書館と述べたように、当館は博物資料、図書、文書資料を所蔵している。さらに、もともと大阪の社会労働運動史を編纂するために資料を集め始めたため、蔵書は〈大阪の地域資料〉という性格を強く持つ。1989年に総評大阪地評と大阪同盟が解散して連合大阪が結成されたとき、両労働組合の資料室が所蔵していたすべての資料を引き



書類やアルバムなど、未整理の労組資料

取ったため、社運協の資料室には戦後大阪の労働運動のすべての歴史が集まったと言っても過言ではない。

また2009年3月には、頓挫した「国立産業技術史博物館」の誘致を計画していた大阪府などが廃棄した産業資料2万点を引き取ったため、小型の機械・工具・設計図なども所蔵することになった。

図書館の蔵書として珍しいものの一つに、企業の広報誌が挙げられる。数はまだまだ少ないとはいえ、関西の企業を中心に広報誌を収集している。



大正時代に発給された労働運動家の旅券

2008年12月25日現在、蔵書構成は以下の通り。

- ・ 図書 約62000冊（プラザの旧蔵書17000冊を含む）
- ・ 雑誌 約59000冊（同上1万冊を含む）
- ・ 視聴覚資料 約600本（同上440本を含む）
- ・ 文書資料（原資料）5700点
- ・ 博物資料 数百点（ほとんど未整理）
- ・ 未整理文献資料 約100メートル

一般の公共図書館と異なって、蔵書のほとんどが寄贈であり、労働組合や社会運動団体との強い繋がりによって、当該団体の内部資料を収集する文書館としての側面も大きい。

社運協が設立されたとき、まず始めに資料室に寄贈・寄託されたのは初代理事長中江平次郎氏（故人・元大阪総評議長）の所蔵資料であった。それは戦後大阪の労働運動の記録を網羅した内部文書の膨大な綴り（簿冊）で

ある。それらを「中江文書」と名付け、同時に蔵書家中江氏の図書も受贈して「中江文庫」と総称した。このうち、昭和20年代の文書類については『大阪社会運動協会蔵書目録 中江文書1』を1994年に刊行した。

◆Webで資料紹介

当館には近隣の公共図書館はもちろん、大学図書館も所蔵していない文献や博物資料がある。また、国立国会図書館などが所蔵していない新聞資料を数百タイトル所蔵している。

こういったグレイ・ペーパーはOPACによる検索で資料に行き着く可能性が低い資料群なので、レアもの資料紹介専用ブログを立ち上げ、写真つきで資料の解説を発信している。まだ記事が少ないので十分活用できていないが、今後、このブログをデータベースとしても利用していけるようにと考えている。

<http://d.hatena.ne.jp/shaunkyo/>

また、新着雑誌についてはブログに目次を掲載しているので、検索エンジン経由での来館者も増えている。

<http://d.hatena.ne.jp/l-library/>

◆事業収益で運営費捻出を

寄付に頼るだけではなく、私達は様々な事業を立ち上げ収益を得られるようプロジェクトを開始している。

労働組合史の編纂、賃金管理ソフトの斡旋販売、図書管理ソフトの開発協力・宣伝、といった事業に着手している。今後は労働運動史の教材を作成したり、講座を開くことも検討している。

◆サポート会員募集中！

会員目標数1000人にはまだまだ足りず、現在360人の方からご寄付をいただいているに過ぎない。サポート会員は1口5000円から。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

郵便口座 00990-9-194176

口座名義「エル・ライブラリー会」

大阪産業労働資料館

- ◆所在地 大阪市中央区北浜東3-14 大阪府立労働センター（エル・おおさか）4階
- ◆最寄り駅 地下鉄谷町線または京阪本線「天満橋駅」下車、西へ350メートル
- ◆電話 06-6947-7722

◆Eメール lib@shaunkyo.jp

◆利用時間：平日の10：00～17：00（原則として予約制）。サポート会員には時間外開館特典あり。年末年始は休館。その他、臨時休館あり。

◆利用資格：閲覧無料。

貸出はサポート会員のみ。

〔大阪産業労働資料館館長 谷合佳代子〕